

十字路

デフレとの戦いは政府のデフレ宣言で始まった。2001年3月の月例経済報告に、デフレであるという分析が掲載されてからちょうど20年という節目を迎えた。今は、月例経済報告にデフレという言葉はなく休戦中だが、デフレ脱却宣言が出るまでこの戦争は続く。

なぜデフレ戦争は終わらないのか。まず日銀に戦う武器がなかった。金利がゼロまで下がってこれ以上下げる余地がなくなり、量的緩和が新しい武器になった。しかしマネタリーベースをいくら膨張さ

デフレ戦争開戦から20年

せても、そこから先にお金が出回らないと、バズーカと言っても空砲にすぎない。

また政治の世界では、デフレ戦争は続けることに意義がある。金融緩和の結果として円安や株高が続くことが大事だ。低金利と日銀による国債購入が続けば、国の借金の負担も軽減される。2%の物価目標達成より、金融緩和が続くことが重要だ。

しかし痛みを感じない戦争だとしても、いつまでも続けていてよいものではない。異次元の資産購入によって日銀のバランスシートは膨張している。中央銀行が民間企業の大株主になっているというのも普通の姿ではない。

さらに20年からは新型コロナ

ナウイルスショックへの対応も迫られ、マネーストックはバブル期並みの高い伸びとなっている。空砲だったバズーカが実弾入りとなり、バブルの芽も出てきそうだ。しかし、それでも物価は上がらない。新型コロナウイルスが収束しても、デフレ脱却のために強烈な金融緩和が続くことを日銀は恐れる。

なぜデフレを脱却できないのかという議論は盛んだが、何のためにこの戦争を続けるのかという議論は封印されてきた。デフレを脱却すれば日本は元気になれるという思い入れだけではもう戦えない。(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

研究主幹 鈴木 明彦